

四国東部三波川帯広石地域の変成岩中に 見られる変成鉱物の化学組成

馬渕 映美

島根大学理学研究科地質学専攻

Chemical compositions of the constituent minerals from the Sambagawa metamorphic rocks
in the Hiroishi area, eastern Shikoku, Japan

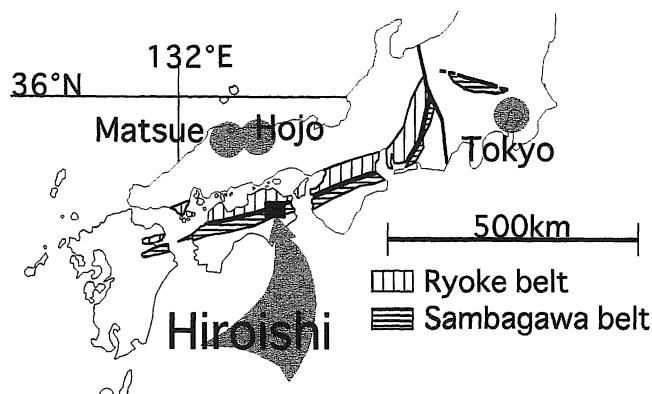
Emi MABUCHI

(Received September 18, 1998)

The Sambagawa metamorphic rocks ranging from the chlorite zone to the garnet zone are widely distributed in the Hiroishi area, eastern Shikoku, Japan. The Sambagawa metamorphic rocks include pelitic schists, basic schists and a small amount of siliceous and psammitic schists. The chemical compositions of the constituent minerals of the Sambagawa basic and pelitic schists were analyzed by an electron probe microanalyzer, and the representative chemical compositions of the amphibole, garnet, muscovite and chlorite are represented in this paper.

1. はじめに

三波川帯は西南日本外帯の北縁部に、延長約 800 km にわたって帶状に分布する低温高压型変成帯である。広石地域は、四国東部に位置し（第1図）、この地域の地質、層序、構造については、Iwasaki (1963), 剣山研究グループ (1963), Faure (1983), 眉山周辺について



第1図：西日本外帯分布図

では、岩崎（1955）、岩崎ほか（1963）、また、高越山周辺については、大島ほか（1963）などの研究がある。

本研究では、広石地域の地質調査をおこない、調査地域を5つの地帯に区分し、ざくろ石をはじめとする変成鉱物についてEPMAによる化学分析を行った。これらの結果について、広石地域内での特徴の検討と、他の地域の三波川帯との比較検討を行った。

2. 広石地域の地質

調査地域は、広石鉱山を中心とする東西約3km、南北約3kmの地域で、Iwasaki（1963）、岩崎ほか（1963）における樅平層、川田山層、高越層、川田層が露出している。

この地域の地質の特徴として、東西によく連続する塩基性片岩層、泥質片岩層、珪質片岩層と数枚のレンズ状塩基性片岩、泥質片岩の薄層がみられる。珪質片岩層はおもに紅廉石片岩からなり、一部紅廉石を含まない珪質片岩との片層がみられるところもある。長戸から広石、折木にかけての地域の塩基性片岩層にはキースラーガー鉱床が含まれ、その付近には藍閃石片岩も見られる。

曹長石斑状片晶は石堂～持部にかけての地域の北部にみられる。この付近のサンプルについて、その曹長石斑状変晶の長経を測り、ヒストグラムと平均、最大長径についてのグラフを検討した。

この結果、この境界付近にギャップがあるのではないかと考えられ、faure（1983）にそった結果となった。

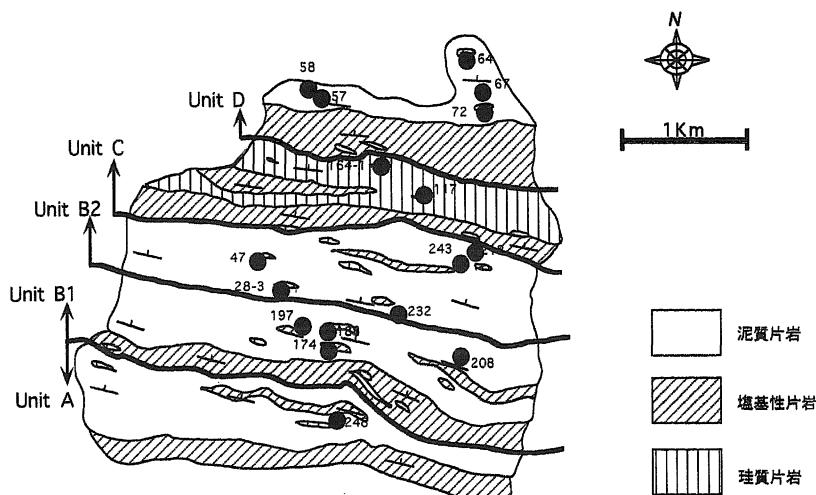
今回の調査では、東西に連続する紅廉石片岩層が一枚しか見られなかつたため、かわりに塩基性片岩の下底を基準として、見かけの下位よりそれぞれUnit A, Unit B, Unit C, Unit Dとし、Unit Bについては最大長径2.0mm以上の曹長石斑状変晶を基準として、2.0mm以上の曹長石斑状変晶を含まないものをUnit B1, 2.0mm以上の曹長石斑状変晶を含むものをUnit B2とした。以下本論ではUnit A, Unit B1, Unit B2, Unit C, Unit Dの区分にそつて分析を行つた（第2図、第3図）。

3. 変成鉱物の化学組成

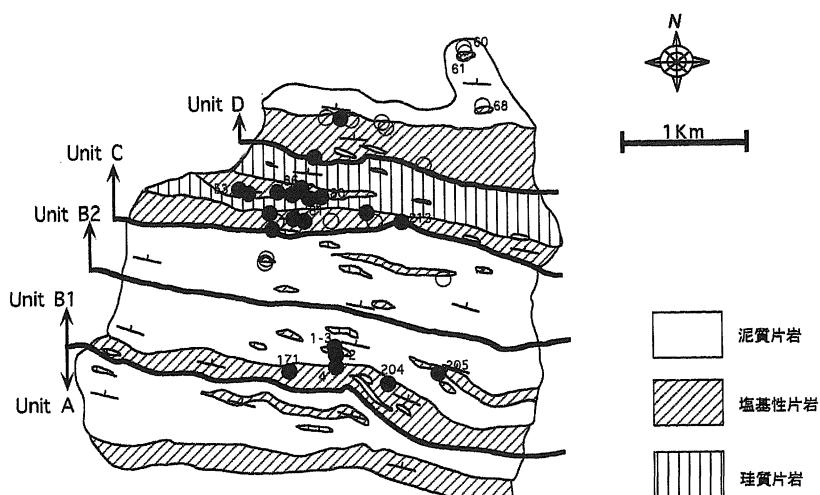
四国東部広石地域の泥質片岩中の白雲母、ざくろ石、緑泥石、塩基性片岩中の角閃石類と緑簾石、鉄鉱についてEPMAによる化学分析を行つた。EPMA分析には、島根大学汽水域研究センター設置の日本電子社製波長分散型EPMA JEOL JXA-8800Mを用いた。また、分析は加速電圧15kV、試料電流 2×10^{-8} A、ビーム径5μmで行つた。補正計算は、Bence and Albee（1968）の方法に従つた。

1) 白雲母

白雲母のFeOはUnit Aで2.6～6.4wt.%（0.30～0.50）、Unit B1で2.2～4.7wt.%（0.25～0.54）、Unit B2で2.2～4.3wt.%（0.29～0.57）、Unit Cで1.9～5.1wt.%（0.27～0.59）、Unit Dで0.1～5.0wt.%（0.30～0.56）である。



第2図：広石地域の泥質片岩中の白雲母，ざくろ石のサンプル集地点。

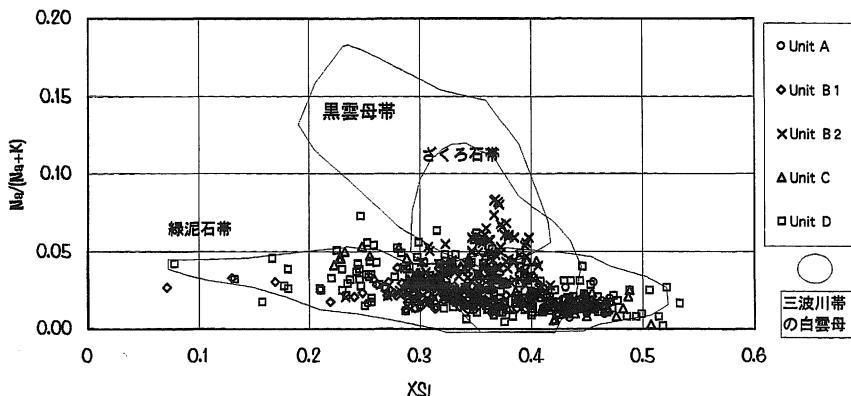


第3図：広石地域の塩基性片岩中の角閃石，緑簾石のサンプル集地点。

- ：アルカリ角閃石を含む塩基性片岩。
- ：アルカリ角閃石を含まない塩基性片岩。

Na_2O はUnit Aで0.1~0.2 wt.% (0.02~0.05), Unit B1で0.1~0.3 wt.% (0.03~0.08), Unit B2で0.1~0.6 wt.% (0.05~0.16), Unit Cで0.0~0.4 wt.% (0.04~0.11), Unit Dで0.1~0.6 wt.% (0.05~0.10) である。

縦軸に $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ を、横軸に $X_{\text{Si}} = (\text{Si}/2) - 3$ をとって、第4図に示した。馬渕

Mus Hiroishi

第4図：広石地域の泥質片岩中の白雲母の化学組成

(1995) の、四国中央部三波川帯のものと全体的に比較して見ると、四国東部三波川帯、広石地域の白雲母は、ざくろ石帯～緑泥石帯の範囲に分布していることがわかる。ユニットごとにみると、Unit A は X_{Si} は 0.25～0.47, $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ は 0.01～0.04 で、緑泥石帯に相当している。Unit B では B1 と B2 に大きな違いが見られる。Unit B2 は X_{Si} は 0.23～0.41, $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ は 0.02～0.08 を示し、緑泥石帯からざくろ石帯に相当する。一方、Unit B1 は X_{Si} は 0.07～0.45, $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ は 0.02～0.04 で、緑泥石帯に相当する。Unit C では X_{Si} は 0.22～0.51, $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ は 0.01～0.06 を示し、全体的には Unit D と同じ緑泥石帯に相当する。Unit C ではざくろ石を含むもの (Sample No. 117) と、含まないもの (Sample No. 164-1) があり、相対的には Sample No. 164-1 のほうが $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ が高い。Unit D では X_{Si} は 0.07～0.54, $\text{Na}/(\text{Na}+\text{K})$ は 0.01～0.07 を示し、全体的に緑泥石帯に相当する。

2) ざくろ石

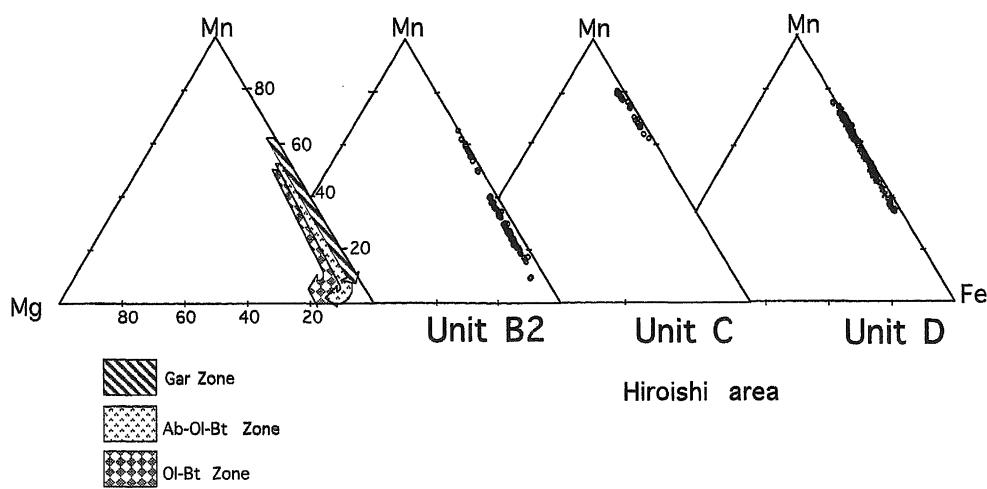
泥質片岩中のざくろ石は Unit B2, Unit C, Unit D で見られる。

MnO は、Unit B2 でコア 7.1～14.8 wt.% (0.62～1.05), リム 2.6～9.6 wt.% (0.18～0.61), Unit C でコア 31.7～33.6 wt.% (2.12～2.35), リム 25.3～31.7 wt.% (18.6～2.18), Unit D でコア 17.0～26.2 wt.% (0.95～1.79), リム 10.1～24.7 wt.% (0.63～1.68) である。

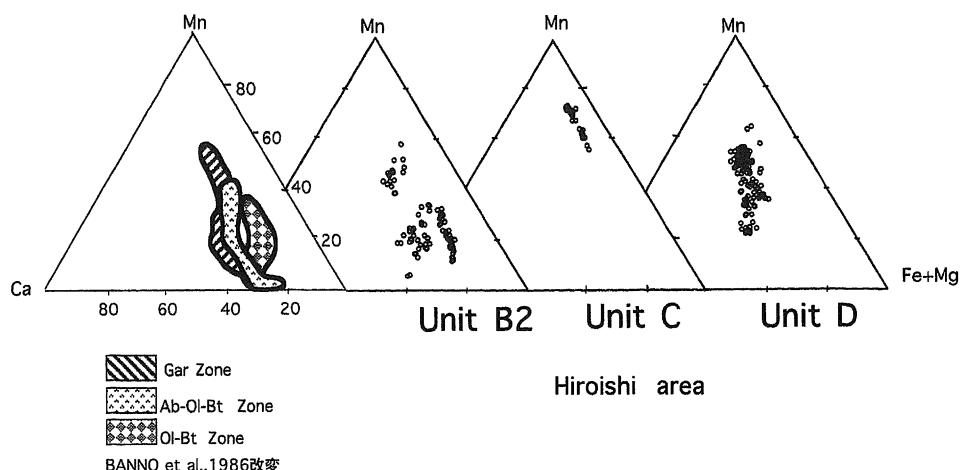
MgO は Unit B2 でコア 0.5～0.6 wt.% (0.06～0.08), リム 0.5～0.8 wt.% (0.06～0.10), Unit C でコア 0.5～0.6 wt.% (0.06～0.06), リム 0.2～0.6 wt.% (0.04～0.06), Unit D でコア 0.1～0.3 wt% (0.02～0.03), リム 0.1～0.4 wt.% (0.02～0.04) である。

この分析結果をもとに $\text{Mn}-\text{Fe}-\text{Mg}$ 比を三角ダイアグラムにプロットした。特徴として、広石地域のざくろ石はいずれもコアで Mn が高く、リムで低い傾向が見られる。比較のために四国中央部三波川帯のざくろ石の組成 (Banno et al., 1986) を示した。(第5図)

広石地域の Unit B2 は Banno et al. (1986) のざくろ石帯に比較される。Unit C では、紅



第5図：広石地域の泥質片岩中のざくろ石の化学組成 (Fe-Mn-Mg)



第6図：広石地域の泥質片岩中のざくろ石の化学組成 (Fe+Mg-Mn-Ca)

廉石片岩層に挟まれる泥質片岩にざくろ石を確認した。このざくろ石の Fe は Mn-Fe-Mg の 3 成分系において 36.7% 以下であり、Banno et al. (1986) のざくろ石帶の組成範囲よりも Mn に富む領域にプロットされる。Unit D では、Banno et al. (1986) のざくろ石帶に比較される。

Mn-Ca-Fe+Mg 比についても三角ダイアグラムにプロットした。また比較のために四国中央部三波川帯のざくろ石の組成 (Banno et al., 1986 を改変) を示した (第6図)。

3) 角閃石

Unit B2, Unit C, Unit D の角閃石について定量分析をおこない、これをもとに角閃石を分類した。分類方法、及び F_4O_3 の計算方法は Leake (1978) に従った。これにより Unit B2, Unit C ではカルシウム角閃石、ナトリウム-カルシウム角閃石、アルカリ角閃石が、Unit D ではカルシウム角閃石が見られた。

Unit B1 ではクロス閃石-マグネシオリーベック閃石-ウィンチ閃石-アクチノ閃石、クロス閃石-マグネシオリーベック閃石-アクチノ閃石-ウィンチ閃石、マグネシオリーベック閃石-クロス閃石-アクチノ閃石、マグネシオリーベック閃石-ウィンチ閃石、アクチノ閃石-ウィンチ閃石、アクチノ閃石-マグネシオリーベック閃石-ウィンチ閃石の累帯構造がみられた。

Al_2O_3 はカルシウム角閃石で 0.1~2.8 wt.% (Al^{IV} 0.13~0.43, Al^{VI} 0.00~0.11), ナトリウム-カルシウム角閃石で 1.7~6.7 wt.% (Al^{IV} 0.08~0.30, Al^{VI} 0.11~0.41), アルカリ角閃石で 2.4~4.6 wt.% (Al^{IV} 0.00~0.31, Al^{VI} 0.26~0.69) である。

CaO はカルシウム角閃石で 9.0~11.4 wt.% (1.39~1.73), ナトリウム-カルシウム角閃石で 4.3~8.5 wt.% (0.66~1.32), アルカリ角閃石で 0.8~5.3 wt.% (0.14~0.63) である。

Na_2O はカルシウム角閃石で 1.1~2.7 wt.% (Na_A 0.00~0.24, Na_B 0.27~0.62), ナトリウム-カルシウム角閃石で 2.7~6.5 wt.% (Na_A 0.00~0.19, Na_B 0.70~1.33). アルカリ角閃石で 5.1~7.1 wt.% (Na_A 0.00~0.19, Na_B 1.37~1.84) である。

Unit C はコアからリムへ、藍閃石-クロス閃石-ウィンチ閃石-アクチノ閃石、クロス閃石-ウィンチ閃石-アクチノ閃石、ウィンチ閃石-アクチノ閃石の累帯構造がみられる。

Al_2O_3 はカルシウム角閃石で 1.2~5.1 wt.% (Al^{IV} 0.04~0.41, Al^{VI} 0.16~0.23), ナトリウム-カルシウム角閃石で 3.2~8.9 wt.% (Al^{IV} 0.01~0.35, Al^{VI} 0.30~0.77), アルカリ角閃石で 3.9~9.9 wt.% (Al^{IV} 0.03~0.30, Al^{VI} 8.3~1.57), である。

CaO はカルシウム角閃石で 7.3~11.8 wt.% (0.56~1.80), ナトリウム-カルシウム角閃石で 1.7~8.5 wt.% (0.65~1.28), アルカリ角閃石で 0.4~4.3 wt.% (0.12~0.16) である。

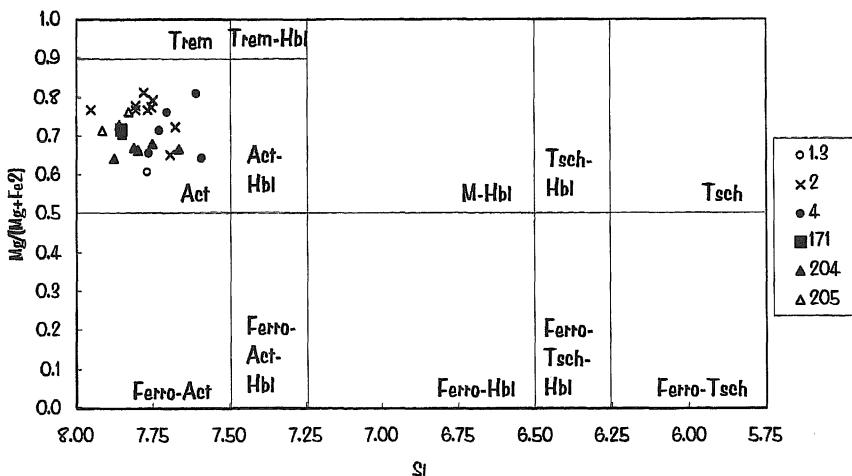
Na_2O はカルシウム角閃石で 0.8~2.3 wt.% (Na_A 0.00~0.04, Na_B 0.20~0.60), ナトリウム-カルシウム角閃石で 2.7~4.8 wt.% (Na_A 0.00~0.01, Na_B 0.67~1.31), アルカリ角閃石の Na_2O で 5.1~7.2 wt.% (Na_A 0.00~0.06, Na_B 1.6~1.86) である。

Unit D ではカルシウム角閃石しかみられなかった。

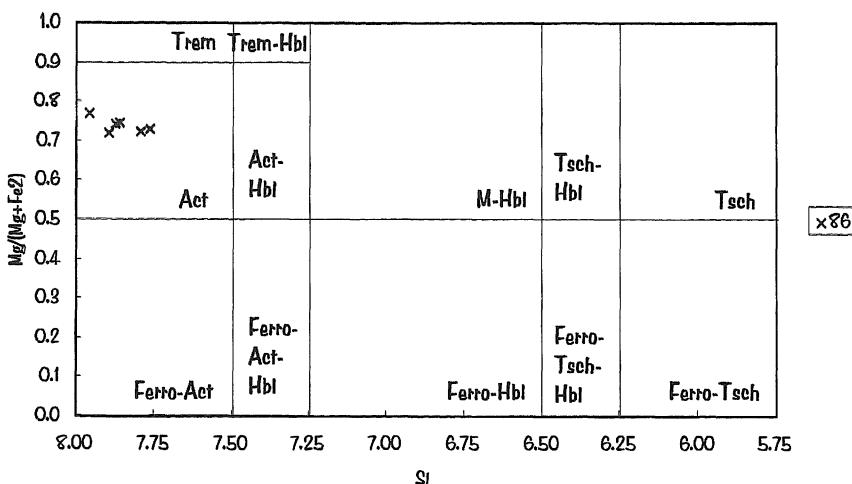
Al_2O_3 は 0.8~6.3 wt.% (Al^{IV} 0.18~0.69, Al^{VI} 0.03~0.42), CaO は 8.3~12.2 wt% (1.40~1.90), Na_2O は 0.4~3.4 wt.% (Na_A 0.10~0.32, Na_B 0.12~0.59) である。

これらの角閃石の分析結果をもとに、カルシウム角閃石について、縦軸に $Mg/(Mg+Fe^{2+})$ を、横軸に Si をとってプロットした(第7図、第8図、第9図)。これにより Unit D のカルシウム角閃石はアクチノ閃石、アクチノ閃石質ホルンブレンド、フェロアクチノ閃石、フェロアクチノ閃石質ホルンブレンドに分類される。また Unit B1, Unit C のカルシウム角閃石はアクチノ閃石に分類される。

次にナトリウム-カルシウム角閃石について縦軸に $Mg/(Mg+Fe^{2+})$ を、横軸に Si をとってプロットした(第10図、第11図)。これにより Unit B1, Unit C のナトリウム-カルシウ

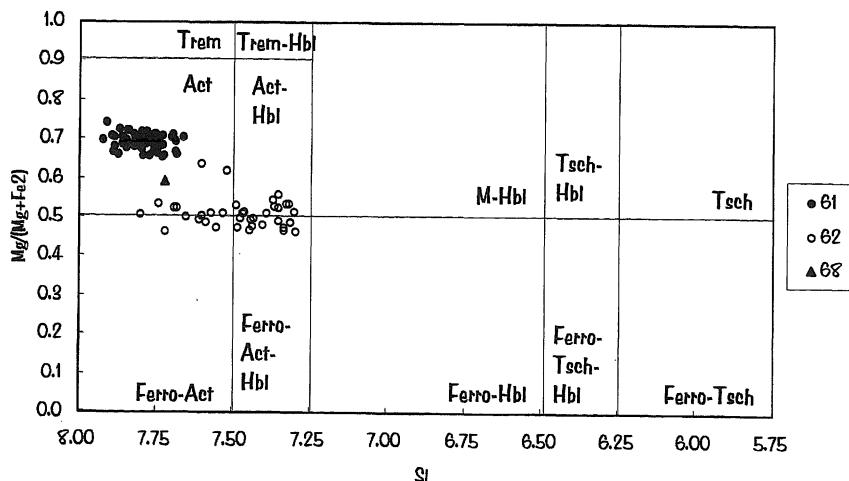


第7図：広石地域Unit B1にみられるカルシウム角閃石の化学組成

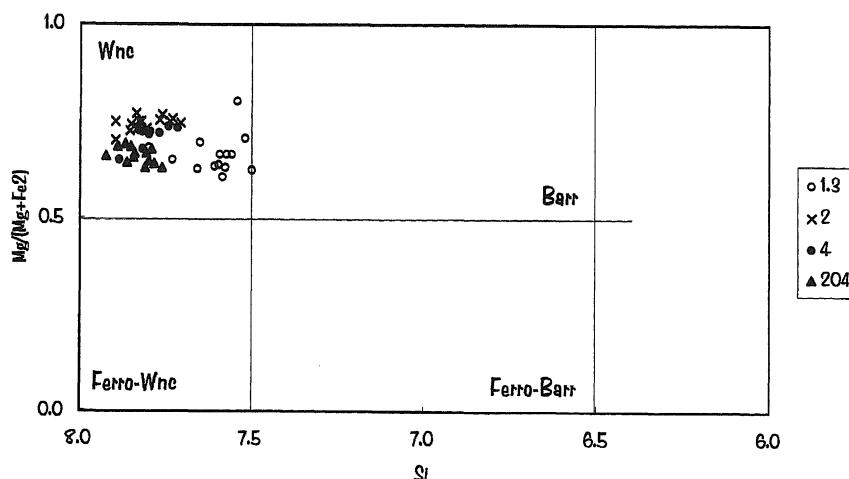


第8図：広石地域Unit Cにみられるカルシウム角閃石の化学組成

ム角閃石はウィンチ閃石に分類される。アルカリ角閃石については縦軸に $Mg/(Mg+Fe^{2+})$ を、横軸に $Fe/(Fe+Al^{VI})$ をとってプロットした(第12図、第13図)。これによりUnit B1ではクロス閃石～マグネシオリーベック閃石に、Unit Cではクロス閃石～藍閃石に分類された。これらすべての角閃石について、縦軸に Na_B を、横軸に Al^{VI} をとり、その圧力の比較をおこなった(第14図、第15図)。



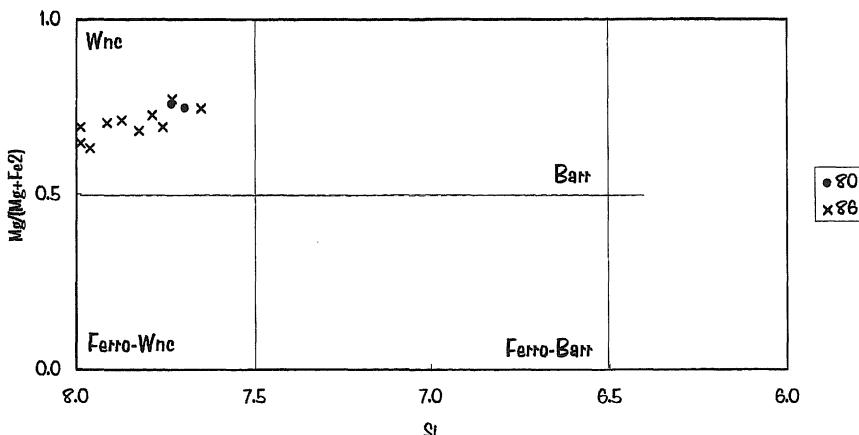
第9図：広石地域 Unit D にみられるカルシウム角閃石の化学組成



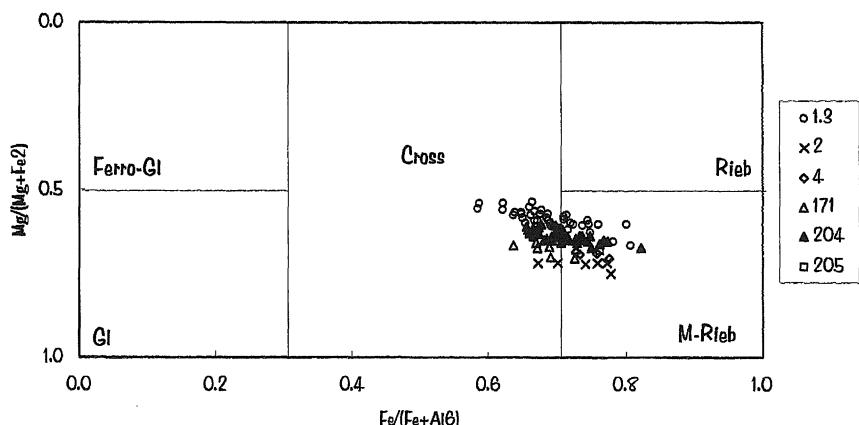
第10図：広石地域 Unit B1 にみられるナトリウム-カルシウム角閃石の化学組成

4) 緑簾有

緑簾石のピスタサイト成分 ($\text{Fe}^{3+}/(\text{Fe}^{3+} + \text{Al})$) についてユニットごとの大きな違いはみられなかったが、個々の結晶についてみてみるとピスタサイト成分はわずかだがコアで高くなりムで低い傾向がみられた。



第11図：広石地域 Unit C にみられるナトリウムーカルシウム角閃石の化学組成



第12図：広石地域 Unit B1 にみられるアルカリ角閃石の化学組成

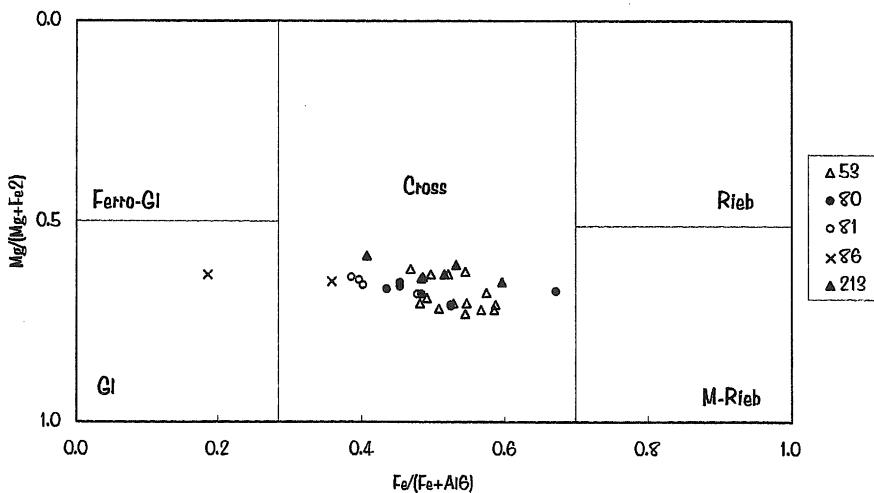
5) 鉄鉱

塩基性片岩中の鉄鉱について定量分析を行った。この結果いずれも赤鉄鉱である。

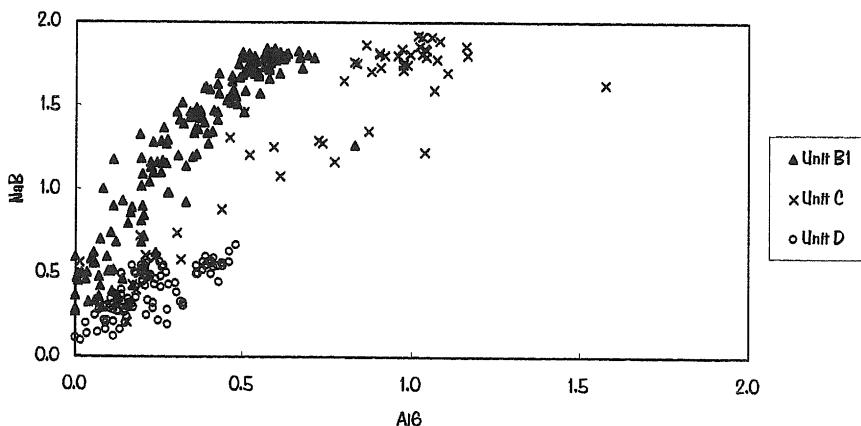
4. 結論

広石地域における泥質片岩中の白雲母およびざくろ石の化学組成を検討した結果、Unit B2 の下部で緑泥石帶上部～ざくろ石帶に相当する。その他は緑泥石帶に相当する。

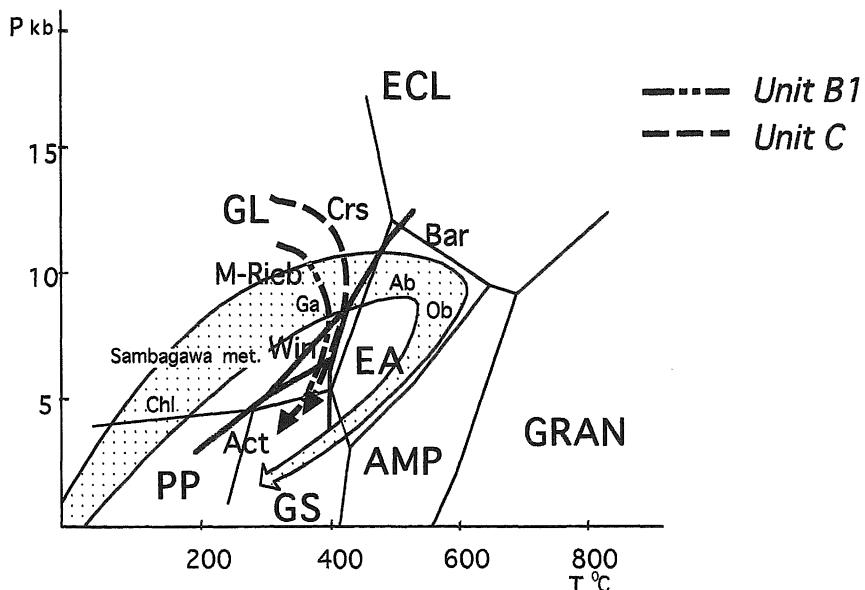
広石地域の塩基性片岩はいずれも赤鉄鉱を含んでおり、アルカリ角閃石、ナトリウムーカ



第13図：広石地域 Unit C にみられるアルカリ角閃石の化学組成

第14図：Unit B1, Unit C, Unit D にみられる角閃石を Na_B と Al_2O_3 についてプロットしたもの。

ルシウム角閃石、カルシウム角閃石が見られるが、特に Unit C と Unit B1 に見られるアルカリ角閃石の化学組成がかなり異なることが分かった。Unit C のアルカリ角閃石は藍閃石～クロス閃石に属し、Unit B1 のアルカリ角閃石はクロス閃石～マグネシオリーベック閃石に属する。この組成の違いは Unit B1 と Unit B2 の境界に推定した断層の存在の可能性を高めている。角閃石類の累帯構造については、Unit C で藍閃石を含む累帯構造から藍閃石～クロス閃石～ウィンチ閃石～アクチノ閃石の安定フィールドを通る温度～圧力経路が考えられ、



第15図：Unit B1, Unit C の温度圧力経路。

ECL：エクロジャイト相, GL：藍閃片岩相, EA：緑簾石角閃岩相, AMP：角閃岩相.
 GRAN：グラニュライト相, GS：緑色片岩相, PP：ぶどう石-パンペリー石相, 斜線部：三
 波川帯のフィールド温廉压力経路。
 Chl, Ga, Ab, Ob：泥質片岩による変成分帶. それぞれ緑泥石帶, ざくろ石帶, 曹長石-黒雲母
 帶, 灰曹長石-黒雲母帶. (Takasu, 1986に加筆)

Unit B1 でマグネシオリーベック閃石を含む累帯構造からマグネシオリーベック閃石-ヴィ
 ンチ閃石-アクチノ閃石の安定フィールドを通る温度-圧力経路が考えられる（第15図）。

5. 謝 辞

この論文を作成するにあたり、阿部重卓氏、阿部千恵子氏、阿部鶴一氏、そして阿部洋平
 氏、千尋氏、松井香織氏、理香氏、鳥取から足を延ばして下さった父と母、宿や食事を提供
 して下さった香川県の岡美登子氏とその家族の方々、仕事を手伝ってくれた島根大学理学部
 地質学科の舌間洋二氏、阿部嘉彦氏に感謝の意を表します。

最後にこの論文を書くにあたり、高須 晃教授には研究だけでなくいろいろな面でサポー
 トしていただきました。本当にありがとうございました。

参考文献

- Banno, S., Sakai, C. and Higashino, T. (1986) Pressure-temperature trajectory of the Sanbagawa metamorphism deduced from garnet zoning. *Lithos*, **19**, 51–63
- Bence, A. E. and Albee, A. L. (1968) Empirical correction factors for the electron microanalysis of silicates and oxides. *Journal of Geology*, **76**, 382–403
- Faure, M. (1983) Eastward ductile shear during the early tectonic phase in the Sambagawa belt. *Journal of the Geological Society of Japan*. Vol **89**, No. 6, P. 319–329
- Hara, I., Shiota, T., Hide, K., Okamoto, K., Takeda, K., Hayasaka, Y. & Sakurai, Y. (1990) Nappe structure of the Sambagawa belt. *J. metamorphic Geol.*, **8**, 441–456
- 東野外志男 (1990) 四国中央部三波川変成帯の変成分帶. 地質学雑誌, **96**, 703–718
- Higashino, T. (1990) The higher grade metamorphism onation of the Sambagawa metamorphic belt in central Shikoku, Japan. *J. Metamorphic Geol.*, **8**, 413–423
- 岩崎正夫 (1995) 徳島市眉山の藍閃片岩類 (第1報). 徳島大学学芸紀要, 27–40
- 岩崎正夫, 加治敦次, 安田治男, 笠井正也, 小川棋文 (1963) 徳島市周辺藍閃片岩地域の地質と岩石 (第2報). 徳島大学学芸紀要**13**卷, 55–63
- Kawauchi, Y. (1968) Large-scale overturned structure in the Sambagawa metamorphic zone in central Shikoku, Japan. *J. Geol. Soc. Japan*, **74**, 607–616
- 剣山研究グループ (1963) 四国東部結晶片岩地域の地質. 地球化学, 第**69**号 1 16–19
- 剣山研究グループ (1984) 四国中央部大歩危地域の三波川帯の層序と地質構造. 地球科学, **38**, 53–63
- 小島丈児 (1951) 四国中央部結晶片岩地域の層序と構造. 地質学雑誌, **57**, 117–190
- 小島丈児, 秀 敬, 吉野言生 (1956) 四国三波川帯におけるキースラーガーの層序的位置. 地質学雑誌, **62**, 30–45
- Leake, B. E. (1978) Nomenclature of amphibole. *American Mineralogist*, Volume **63**, P1023–1052
- 馬渕映美 (1995) 四国四万十帯大山岬層中の変成岩礫の起源. 島根大学地質学研究報告, 第14号, P21–35
- 大嶋恒彦, 岩崎正夫, 中山 勇 (1963) 徳島県高越鉱山周辺三波川帯の層序と構造. 地質学雑誌, 第**69**卷, 第813号, 243–251
- Otsuki, M. and Banno, S. (1990) Prograde and retrograde metamorphism of hematite-bearing basic schists in the Sambagawa belt in central Shikoku. *J. Metamorphic Geol.*, **8**, 425–439
- Takas, A. (1984) Prograde and retrograde eclogites in the Sambagawa metamorphic belt, Besshi district, Japan. *J. Petrol.*, **25**, 619–643
- Takasu, A. (1989) P-T histories of peridotite and amphibolite tectonic blocks in the Sanbagawa metamorphic belt, Japan. *Geol. Soc. Spec. Pub.*, **43**, 533–538
- Takasu, A. and Dallmeyer, R. D. (1990) $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ mineral age constraints for the tectonothermal evolution of the Sambagawa metamorphic belt, central shikoku, Japan A Cretaceous screectionary prism. *Tectonophysics*, **185**, 111–139

Table 2. (Continued)

Unit No	Unit C	Unit D				Unit D																
		6213	61,17	61,18	61,19	61,20	61,21	61,22	61,23	61,24	68201	68202	68203	68204	68205	68206	68207	68208	68209	68210	68211	68212
Info	r ₂ -r ₁	4.7inc	ep2	ep2	ep2	ep2	ep2inc	ep2inc	ep2inc	ep1	ep3	ep2	ep2	ep2								
SiO ₂	37.25	37.55	38.34	38.08	37.81	37.97	38.55	38.46	38.78	38.71	38.83	38.21	38.45	38.41	38.37	37.89	38.25	37.80	38.55	38.35	37.84	38.66
TiO ₂	0.07	0.03	0.08	0.00	0.04	0.05	0.06	0.05	0.09	0.09	0.08	0.00	0.04	0.00	0.02	0.02	0.01	0.14	0.02	0.03	0.10	0.09
Al ₂ O ₃	21.51	23.07	24.24	24.13	22.18	21.67	24.16	25.91	24.25	24.31	22.58	22.71	22.76	23.19	22.74	22.28	23.08	24.15	23.05	22.71	23.05	25.30
Fe ₂ O ₃ *	16.11	14.20	12.69	12.74	14.21	15.46	12.36	12.62	12.37	12.15	14.06	14.15	15.92	13.20	13.98	14.48	15.74	11.28	15.65	13.63	13.41	10.41
MnO	0.60	0.27	0.27	0.29	0.17	0.17	0.37	0.38	0.32	0.30	0.19	0.24	0.22	0.26	0.22	0.02	0.21	0.24	0.23	0.18	0.37	0.20
CaO	22.67	24.20	24.24	24.55	24.07	24.01	23.83	23.92	23.96	24.19	23.83	24.02	25.85	24.17	23.98	23.80	23.84	23.91	23.81	23.92	23.55	23.90
Total	98.21	99.32	99.85	99.74	98.49	99.24	99.33	99.35	99.74	99.05	99.33	99.24	99.23	99.30	98.53	99.12	97.52	99.31	98.82	98.30	98.55	

Cation	Si	6.227	6.099	6.126	6.098	6.190	6.191	6.175	6.173	6.178	6.170	6.218	6.189	6.219	6.196	6.207	6.207	6.188	6.146	6.217	6.222	6.170	6.169
Ti	0.009	0.004	0.009	0.000	0.005	0.000	0.007	0.006	0.011	0.011	0.007	0.000	0.005	0.000	0.002	0.002	0.001	0.017	0.003	0.004	0.012	0.010	
Al	4.238	4.414	4.565	4.559	4.279	4.175	4.561	4.523	4.558	4.566	4.317	4.335	4.339	4.409	4.336	4.290	4.401	4.627	4.382	4.348	4.430	4.759	
Fe	2.026	1.928	1.696	1.709	1.946	2.114	1.659	1.693	1.649	1.620	1.907	1.917	1.883	1.781	1.891	1.979	1.859	1.534	1.641	1.849	1.829	1.389	
Mn	0.085	0.039	0.036	0.039	0.023	0.024	0.050	0.055	0.043	0.040	0.026	0.033	0.030	0.036	0.031	0.003	0.029	0.033	0.051	0.025	0.052	0.027	
Ca	4.060	4.209	4.150	4.218	4.222	4.206	4.090	4.114	4.093	4.130	4.141	4.168	4.132	4.178	4.156	4.166	4.133	4.165	4.175	4.159	4.111	4.086	
Total	76.645	76.690	76.582	76.623	76.665	76.715	76.538	76.561	76.532	76.537	76.617	76.647	76.607	76.600	76.623	76.590	76.602	76.603	76.641				

Unit	Min No	68213	68214	68215	68216	68217	68218
Info	ep2	ep2	ep3	ep3	ep3	ep3	ep3
SiO ₂	38.77	38.17	38.04	38.03	38.37	38.25	
TiO ₂	0.09	0.05	0.11	0.03	0.00	0.07	
Al ₂ O ₃	26.48	22.73	22.58	22.45	23.83	23.61	
Fe ₂ O ₃ *	8.97	13.80	14.30	14.20	12.71	13.08	
MnO	0.20	0.34	0.31	0.26	0.25	0.18	
CaO	24.85	23.67	23.85	23.59	24.30	24.09	
Total	99.36	98.75	98.20	98.55	99.46	99.28	

Cation	Si	6.105	6.206	6.177	6.208	6.159	6.159
Ti	0.010	0.006	0.014	0.003	0.000	0.009	
Al	4.914	4.354	4.323	4.319	4.508	4.480	
Fe	1.181	1.876	1.942	1.939	1.706	1.762	
Mn	0.027	0.046	0.043	0.035	0.034	0.024	
Ca	4.191	4.122	4.149	4.125	4.179	4.157	
Total	16.428	16.611	16.842	16.629	16.586	16.592	

*:Total Fe as Fe₂O₃.

Table 4. (Continued)

	Unit	Unit D	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
Sample			271	272	273	274	275	276	277	278	279	280
SiO ₂	25.47	25.22	25.74	25.26	25.39	25.21	25.40	26.04	25.24	25.54		
TiO ₂	0.01	0.00	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	
Al ₂ O ₃	19.57	19.24	19.67	19.46	19.39	19.55	19.36	18.60	19.66	19.25		
FeO	27.30	26.71	26.98	26.35	27.28	16.71	26.51	26.48	26.83	27.00		
MnO	0.34	0.33	0.35	0.25	0.27	0.33	0.26	0.36	0.40	0.35		
MgO	13.03	12.65	13.20	12.95	12.72	12.89	12.79	13.35	12.86	13.12		
Total	85.73	84.15	85.96	84.30	84.94	74.69	84.50	84.82	84.99	85.26		
Cation												
Si	5.567	5.607	5.595	5.589	5.602	5.960	5.623	5.727	5.556	5.606		
Ti	0.001	0.000	0.003	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	
Al	5.042	5.042	5.046	5.074	5.016	5.446	5.051	4.821	5.101	4.981		
Fe	4.991	4.967	4.904	4.872	5.035	3.303	4.908	4.870	4.940	4.956		
Mn	0.063	0.062	0.064	0.046	0.050	0.065	0.048	0.061	0.075	0.065		
Mg	4.246	4.193	4.276	4.285	4.185	4.543	4.231	4.376	4.221	4.293		
Total	19.910	19.872	19.882	19.870	19.889	19.317	19.851	19.862	19.893	19.902		

